

早生及び極早生ウンシュウの結果量・ 収穫時期と貯蔵養分

[要約]

早生及び極早生ウンシュウの着果量の多少と収穫時期の早晩は、樹体のデンプン含量の蓄積に影響し、着果過多樹では新葉、旧葉、細根、春枝で、収穫時期の遅い樹では細根、春枝で明らかに低い。

[担当者] 栽培部 中地克之・植田 栄仁

[背景・ねらい]

ウンシュウミカンの隔年結果現象は最近増加傾向であり、夏秋期の干ばつ、収穫時期の遅れによる樹勢低下が主な要因とされている。

そこで、「宮川早生」成木の着果量の多少と樹体養分ならびに「宮本早生」成木の収穫時期の早晩と樹体の貯蔵養分及び翌年の着花数との関係を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「宮川早生」の着果過多樹では着果甚少樹に比べて8月の新葉のK含量、11月の新葉、旧葉、細根のK含量が低く、反対に新葉のCa含量が高い(表1)。
2. 貯蔵養分のうちデンプン含量は、各器官において着果過多樹で少なかった。11月には着果甚少樹は各器官とも8月の2倍程度に増加するが、着果過多樹ではほとんど増加しない(図1)。
また、全糖含量は着果過多樹の細根で低い(図2)。
3. 「宮本早生」を12月10日まで収穫時期を遅らせると、細根及び春枝のデンプン含量の蓄積が少なくなるが、全糖含量には差がない(図3、4)。
4. 「宮本早生」の収穫時期を遅らせると、翌年の直花数、有葉花数共に少なくなるが、新葉数には差がない(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 翌年の着花状態を予測する方法として、細根や春枝中のデンプン含量を測定することで判定できる。
2. 極早生温州ミカンでも収穫時期を遅らせると、翌年の着花数が減少する。

[具体的データ]

表1 宮川早生の着果量の多少と無機成分（乾物%）

着果量	器官	N	P	K	Ca	Mg
過	新葉	2.78	0.156	0.53	2.90	0.44
	旧葉	2.19	0.117	0.27	3.06	0.42
多	細根	2.19	0.178	1.74	0.45	0.23
	枝	2.19	0.178	1.74	0.45	0.23
甚	新葉	2.69	0.145	1.39	1.89	0.41
	旧葉	1.94	0.108	0.29	3.19	0.61
少	細根	2.26	0.229	1.73	0.24	0.32
	枝	2.26	0.229	1.73	0.24	0.32
過	新葉	2.48	0.132	0.16	2.63	0.44
	旧葉	2.00	0.100	0.08	2.77	0.37
多	細根	1.80	0.150	0.45	0.61	0.08
	枝	1.80	0.150	0.45	0.61	0.08
甚	新葉	2.42	0.149	0.52	1.50	0.30
	旧葉	2.03	0.125	0.34	2.32	0.46
少	細根	2.00	0.147	0.87	0.38	0.11
	枝	2.00	0.147	0.87	0.38	0.11

(注) 上段：8月21日，下段：11月24日調査

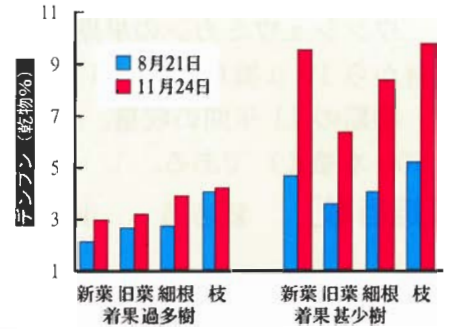


図1 宮川早生の着果量の多少とデンプン含量

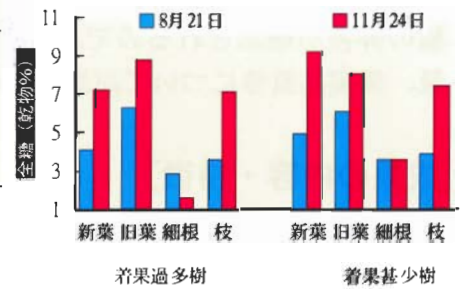


図2 宮川早生の着果量の多少全糖含量

表2 宮本早生の収穫時期と翌年の着花数

収穫時期	直花	有葉花	有葉花率	新葉数
9月30日	849	151	15.0%	557
12月10日	491	65	11.8	615

(注) 旧葉1,000枚当たりの花数及び新葉数

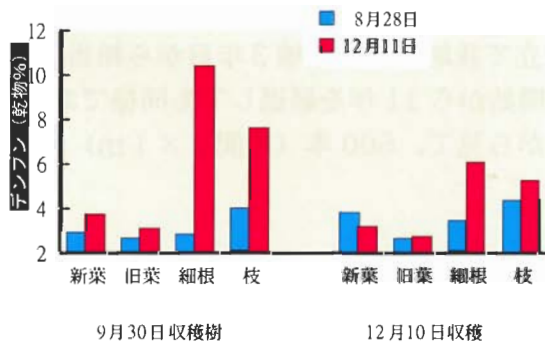


図3 宮本早生の収穫時期とデンプン含量

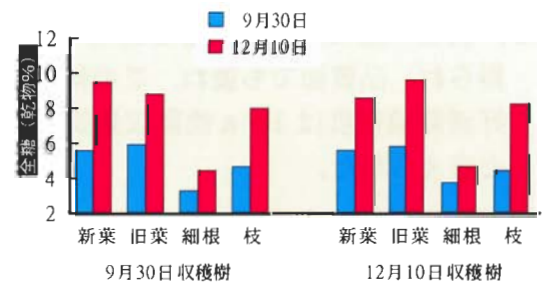


図4 宮本早生の収穫時期と全糖含量